



当院本堂などを会場に開かれた寺子屋修養道場

願 満

復刊第二十七号

2016年 8月

身延別院発行

〒103-0001

東京都中央区

日本橋小伝馬町3-2

Tel 03-3661-3996

Fax 03-3663-2766

十五人の子どもさんが参加

寺子屋修養道場

身延別院青年会のメンバーが八月六、七日の一泊二日の日程で、「お寺に泊まろうく寺子屋修養道場」を開催し、檀信徒の子どもさん、お孫さんなど十五人が参加しました。

「寺子屋修養道場」は、青年会が子育て支援活動の一環として企画を練り、平成二十二年に初めて開催されました。子どもさん、お孫さんが家族から離れ、お寺で生活することで、人や命に対する感謝の気持ちを養ってもらうことが目的です。

今年「いただきます、ごちそうさまの心」をメインテーマに、食育体験を通して「命の大切さ」「感謝の心」を学びました。

一日目の午後一時過ぎから、保護者も参加して開会式が行われました。地下ホールで日程説明を受け、班ごとに自己紹介をした後、子どもたちは今年四月に新社殿が完成した水天宮の見学に出かけました。お寺に戻って夕方のお勤めをした後は、食育体験を楽しみながら夕食をいただきます。夕食後は銭湯体験で「十思湯」に行き、皆で熱い湯船につかりました。お寺に戻り、就寝前にビンゴ大会をして、楽しい一日を締めくくりました。

二日目は午前六時半に起床。朝のお勤めとして、お自我偈とお題目を唱えました。朝食前の掃除の時間には、皆で手分けをして清掃に取り組みました。朝食後は、午前九時半に当院を出発し、上野の国立科学博物館を見学しました。昼食のパンをいただいた後、同館で記念写真を撮影。お寺に戻って午後二時半から当院で閉会式に臨みました。子どもたちにとっても青年会のスタッフにとっても充実した二日間となりました。

(五面に写真特集)

御首題を いただく旅

第二十七回 秋田市・実城院じつじょういん

石造の厨子は秋田市の文化財



石造の厨子が置かれている実城院の本堂

私が「法華霊場(日蓮宗)千か寺参り」を始めてから、今年の五月でまる十年となりました。身延別院を初めて参拝し、御首題をいただいたのは平成十八年九月十日のことですから、こちらも間もなく、まる十年目のお付き合いと

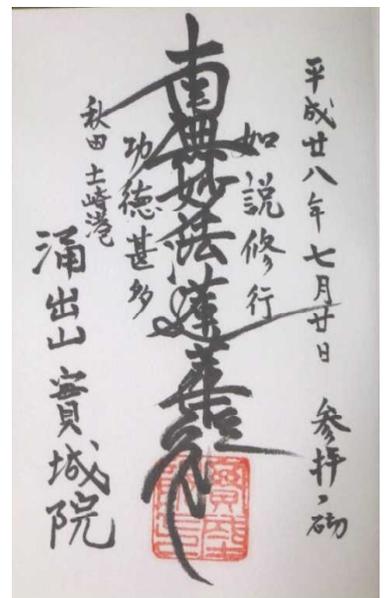
いうことになりました。千か寺参りを成就したのは平成二十二年七月二十八日。

当時は、千か寺参りを成就するにあたって、「各都道府県から最低一か寺は御首題をいただく」と考えていたのですが、その前に、千か寺を成就してしまいました。そして現在もお寺めぐりの旅を続けていて、参拝寺院は一七〇か寺余りとなりましたが、いまだに出かけたことのない地域が四県ありました。今回ご紹介するのは、これまでにしか出かけたことなかった秋田県のお寺です。

実城院はJR秋田駅のお隣、JR土崎駅つちさきから徒歩一〇分ほどの場所にありました。駅前広場に立ったとき、お祭りの日であることがすぐに分かりました。勇壮な武者人形を載せた曳山が町中のあちこちに繰り出し、笛や太鼓、お囃子の音がそこから聞こえてきたからです。地元の人に尋ねると、国の重要無形民俗文化財「土崎神明神社祭の曳山行事」(土崎港曳山まつり)の日ということでした。

街の中心部にある実城院は、お祭りの関係者の昼食会場に開放されていたようで、たくさんの方が行き交い、活気に満ちていました。お寺を参拝したいという趣旨のお手紙を事前に出しておきましたが、このような中で対応していただけののか、心配になったほどです。

でも、心配は無用でした。玄関に現れたご住職は私を本堂に案内し、「お祭りの人たちは気にせず、どうぞゆっくりお参りください」と話し「御首題を書いてきますから」と私の御首題



帳を持って、別室に向かわれました。私はいつものように開経偈、方便品、自我偈、お題目と、はっきりと声を出して唱えました。ただ、本堂の外からは、笛や太鼓、お囃子のリズムがひっきりなしに響いてきて、私の声などかき消されそうでした。こんなにもにぎやかなお祭りムードの中で、参拝するのは初めてのことでした。

日蓮宗寺院大鑑によると、実城院は、もとは秋田市中心街の寺町にありましたが、廃寺となり、文政十二年(一八二九年)八月に現在の土崎地区に再建されたとのこと。

私のお参りが済んだ頃を見計らって再び姿を見せたご住職は「こちらをご覧ください」と厨子の方へ案内してくれました。煤を被ったような黒っぽい厨子が、軒下の垂木、扉、組み物など細部に至るまですべて石造物であることを説明してくれました。地域で産出した石を彫って作り出した厨子で、秋田市の有形文化財に指定されているとのこと。このような厨子を見るのも初めてのことでした。

(平山徹・新聞記者)

夏の風物詩 三木上人の怪談の集いに百四十人



巧みに語る三木上人に聴き入る参加者たち



開演前に挨拶をする三木上人(右)と当院副住職(左)



受付にも行列ができるほどの人気でした

身延別院本堂で七月二十二日、当院青年会主催の「怪談く伝馬町僧侶語り」が開かれました。

お寺に縁のない方でも気軽に足を運んでもらえるようにと、一昨年、昨年と開催し大好評だったイベントです。第三回となる今回も事前に多くの方にお申し込みいただき、さらに当日、寺の前を通りかかった方が看板を見て飛び入り参加するなど、関心の高さがうかがえました。最終的に参加者は満員御礼の百四十人となりました。

怪談の語り部の三木大雲上人(京都・日蓮宗蓮久寺住職)は、多くのメディアで怪談和尚として取り上げられており、関西テレビの「怪談グランプリ」での優勝経験もある名人芸の持ち主です。今回も初公開の最新作をお話しいただき、大いに盛り上がりました。恐怖の実話や自身の心霊体験を、日蓮宗僧侶ならではの法華経的解釈を交えて巧みに語る三木上人の怪談説法に、参加者は釘付けとなりました。

皆で学んだ一泊二日 寺子屋修養道場

食育体験など盛りだくさん

八月六、七日に一泊二日の日程で行われた「寺子屋修養道場」には、十五人の子どもさんが参加しました。最年少は幼稚園生の市原快隼君(五歳)、最年長は小学四年生の西尾宗時君(十歳)でした。年長の子が年少の子の面倒をみたり、リーダーシップをとったりする場面もあり、年齢の違う子ども同士、生活を共にする



国立科学博物館で記念撮影

体験はとて有意義なものとなりました。親子料理教室・食育イベントを主催している団体「foziti」の代表・吉澤晶子さんらによる食育体験もとても貴重な機会でした。自分で削った鰹節で作ったスープ、自分で握ったおにぎり、自分で包丁を使って切った野菜スティックをいただくということは、まだ料理を本格的にしたことがない子どもたちにとってはとても新鮮だったようです。



真剣にお経練習に取り組む子どもさんたち

銭湯体験では、銭湯に入る時のマナーを学びました。国立科学博物館への遠足では、地下鉄の自動券売機で一人で切符を買い、改札を通りました。お題目もたどどしく、開会式では声も出なかった子どもさんも、閉会式では自信を持って大きな声で唱えることができるようになっていました。たったの一泊二日でしたが、皆、一回りも二回りも成長した姿が見られました。



ぬいぐるみを使い、鰹節ができるまでをわかりやすく説明する吉澤さん(写真右)

鰹節のスープ、おにぎり、野菜スティックなど、皆で作った夕食をいただく(写真左)



寺の動き

鰻供養放生会



鰻塚の前で焼香

鰻供養放生会が六月四日、本堂で厳修されました。この放生会は、日本橋地区の鰻の蒲焼の老舗・名店をつくる日本橋蒲焼商組合が施主となり、鰻や淡水魚に対する日頃の感謝、供養の意味を込めて、毎年六月に行っている法要です。組合の皆さんは本堂での法要の後、境内にある「鰻塚」の前で焼香をしました。鰻塚は、組合傘下の十八の店が昭和五十八年四月三日に建立した供養塔です。焼香後、組合の皆さんは日本橋川に移動し、生きた鰻を放流しました。

富士山経ヶ岳を団参

身延別院の檀信徒一行は七月五日、富士山経ヶ岳大祭「立正安国 世界平和祈願法要」に合わせ、現地を参拝しました。昨年は、箱根山の噴火など火山活動が活発になっていたことを考慮して、僧侶のみでの参拝でしたが、今年は、河野信成師、阿部育修師と檀信徒の皆さん五人の計七人が参拝しました。一行は午前八時に当院を車で出発、午前十一時には富士山経ヶ岳に到着しました。



富士山経ヶ岳を参拝した檀信徒の皆さん

文永六年(一二六九年)の夏、富士山麓に住む塩谷平内左衛門の案内によって富士山中腹の五合五勺の地を訪れた日蓮聖人は、法華経によ

る天下泰平・国土安穩を願い、自ら書写された法華経を埋経されました。この地が富士山経ヶ岳であり、「宗祖埋経霊場」とも呼ばれています。

一行は常唱殿に上がり、身延山の布教部長、布教部の各上人、僧道実修生、布教研修所の研修生らと共に、法華経の序品、方便品、お自我偈を誦読した後、お題目を唱えました。ご祈祷を受けた後は、日蓮聖人が天下泰平を祈念した窟いわやと伝えられる「姥ヶ懐うばがなごころ」も参拝しました。

短冊に願い事



本堂前に設置された笹竹

身延別院では七月七日、七夕祈願を行いました。地域の皆さんから親しんでもらおうと、平成十八年(二〇〇六年)から始めた行事です。今年七月五日から本堂前に笹竹が設置され、「世界平和」「身体健全」「家内安全」など、様々な願い事の書かれた色とりどりの短冊が結びつけられました。

本堂で施餓鬼大法要

身延別院の盂蘭盆会施餓鬼大法要が、七月十六日午後一時から、本堂で厳かに営まれました。毎年のお盆(盂蘭盆)の送り火の日に行っている恒例の行事です。

今年は檀信徒約八十人が本堂に集い、全員で提婆達多品、お自我偈、お題目などを唱え、ご先祖をはじめ、有無両縁の諸精霊を供養しました。



七月十六日夕刻、本堂前で送り火を焚く

春季彼岸会法要に五十人

身延別院の春季彼岸会大法要が、三月二十三日午後一時から、本堂で営まれました。檀信徒約五十人が本堂に集い、全員でお経をあげ、ご

先祖をはじめ、ご縁のあった方々を供養しました。

べつたら市、二年ぶりに出店します

身延別院青年会は十月十九、二十日、東京・日本橋本町の宝田恵比寿神社を中心に開かれる「べつたら市」に三年ぶりに出店します。べつたら市へは平成二十一年(二〇〇九年)に初めて出店し、揚げたこ焼き、讃岐うどん、豚汁などを提供してきました。今年は何の店にするか、現在メンバーで検討中です。檀信徒の皆さん、当日は是非お店を見に来てください。

お稚児さん募集

十一月三日に行われる身延別院のお会式では、今年もお稚児さん行列に参加されるお稚児さんを募集いたします。

行列では、お題目と団扇太鼓の音に合わせて、小伝馬町界隈を八百メートルほど練り歩きます。お稚児さんを囲んでの記念撮影も行われ、「とてもよい記念になった」と好評をいただいております。どうぞふるってご参加ください。

また、お会式で本堂の内外に飾り付ける花の製作を十月二十、二十一日に行います。都合のつく日、都合のつく時間帯だけでもかまいません。一時間でも、二時間でも、お手伝いいただける方、どうぞよろしく願います。

今後の予定

- 九月 一日(木) 願満祖師終日お開帳
- 十九日(月) ～二十五日(日) 秋季彼岸会
- 二十五日(日) 秋季彼岸会施餓鬼法要
午後一時より
- 十月 九日(日) 大黒天祭 午後二時より
- 十九日(水) ・二十日(木) べつたら市に
身延別院青年会出店
二十日(木) ・二十一日(金)
お会式花づくり
- 十一月三日(木) 身延別院お会式法要
午後一時より

編集後記

『願満』第二十七号の編集を終えました。今年三月の前号刊行以来、四月十四日の熊本大地震、舛添前東京都知事の退陣と小池新都知事の登場、アメリカ大統領選での民主党クリントン氏、共和党トランプ氏の、両党の代表者決定、そして今はブラジルオリンピックの真っ最中。世の中はめまぐるしく動いています。私たちが、世の中に翻弄されることなく、一日のうち、たとえ短くとも落ち着いた静かな時間を持ちたいものです。(F)

伝馬町と箱根駅伝は親戚だ

特別寄稿 石倉 知之

未開の地である江戸へ向かう徳川家康を迎えにでた、同郷の馬込勘解由は、傳馬事業の経験もあったので、直ちに召し抱えられ、「道中傳馬役」を命ぜられた。傳馬役とは、今でいう物流の原点で、河川物流が盛んになる前の陸上物流の代表として、馬と人とで物を運ぶ役目である。傳馬制度は、すべてご公儀(幕府)の仕事であって、荷を馬の背に乗せ、ヒトがそれを引いて運んだのであるが、長い道のりでは、人も馬も疲れるので、次の宿場(宿駅ともいう)で、人も馬も交代して次々と引き継いで、荷を運ぶ制度である。此の引継ぎを「駅伝」と呼んだ。これになぞらえて、近年日本では「荷」に代わって「襷」を渡し引継ぐ競技が現れた。その最たるものが「箱根駅伝」である。襷の引き継ぎ場所も当時の宿駅の場所に準じているという。

勘解由は、当初は今の東京駅付近にあった宝田村に居住したが、慶長十一(一六〇六)年に江戸城拡張のため、移住させられた宝田村村民と共に、その旗頭となつて、大伝馬町に引っ越した。大伝馬町二丁目(今の伝馬町一之部町会)角の馬込勘解由屋敷内に、傳馬役役所を置いた。馬込勘解由屋敷については、前稿「馬込勘解由屋敷跡文化財説明板―その設立の経緯―」で書いた通りである。この役所は、馬や人足の手配などの、宿場から宿場へ荷物を運搬するための実務全般を取り扱う機関であつて、その役目を「御朱印傳馬役」と呼んだ。これは「公儀の仕事であるが、後になって、公的な利用に支障のない範囲で、料金を取って一般の物流業務をしてもよいことになった。これを「駄賃継立」、その傳馬は「駄賃馬」と言った。

傳馬役は、大きく分けて二つある。「道中傳馬役」と「府内傳馬役」である。簡単に言えば、前者は東海道五十三次を含む五街道全般に亘った全国各地への物流であるのに対して、後者は郊外を含め江戸府内に限定された物流の担当である。江戸城拡張のため、移転を余儀なくされた宝田村の住民は、馬込勘解由を頭とした「大伝馬町」へ移住した組だけでなく、高野新右衛門を頭と

した「南伝馬町」へ移住した組もあった。「南伝馬町」は今の中央通りの八重洲通りから京橋へかけての両側町である。馬込勘解由と高野新右衛門が「道中傳馬役」を仰せつかり、協力して全国の物流に当たった。同時に移転を余儀なくされた隣村、千代田村の住民は、宮辺又四郎を頭として、「小伝馬町」へ移住した。宮辺又四郎は「府内傳馬役」に任ぜられたので、江戸府内の物流を担当した。全国と江戸府内の差を、町名の「大」「小」で区別した。「南伝馬町」「大伝馬町」「小伝馬町」は、当時の江戸を代表する町として「三伝馬町」と呼ばれた。

宿駅傳馬制度は、軍事・交通・流通という都市発展の重要な機能を果たすものであるから、江戸はもちろん、京・大阪にも同様な機能を持った体制が作られ、都市発展の基盤となつたのである。

箱根駅伝の宮ノ下での応援は特徴的で、校名ではなく、選手の個人名を連呼して応援するのである。あの狭い道の両側から、大勢の人々自分の名前前で応援されるのであるから、さぞかし選手は「感激」だろう。

駅伝応援は、力を込めて選手の名前で応援してください。
(選手の名前を呼ぶときは「さん」をつけてください。)

大学名	選手名	応援は名字で
1 東洋大学	玉部 啓	ごろうたに
2 駒澤大学	馬場 剛大	ばば
3 日本体育大学	小坂 昌生	こまち
4 早稲田大学	山本 修平	やまもと
5 青山学院大学	藤野 大地	かみの
6 明治大学	文元 慧	ふみもと
7 日本大学	宮田 大輔	だにえる
8 帝京大学	竹本 嘉希	たけもと
9 拓殖大学	藤上 慎太郎	おがみ
10 大東文化大学	市田 宏	いちだ
11 神奈川大学	藤巻 慎也	わたなべ
12 国学院大学	大下 悠樹	おおした
13 東海大学	宮上 翔太	みやがみ
14 山梨学院大学	前田 拓哉	まえだ
15 中央学院大学	高川 宏太	おいかわ
16 上野大学	森田 清貴	もりた
17 中央大学	小谷 敬宏	こたに
18 順天堂大学	松枝 博輝	まつえだ
19 城西大学	藤崎 龍之	きうち
20 創価大学	セリノルナ 福慈	せるなると
21 関東学院大学	吉村大輝	よしむら



箱根駅伝(宮ノ下での応援)

◇石倉知之(いしくら・ともゆき)

昭和5年日本橋大伝馬町生まれ。東京大学で、農芸化学を専攻。卒業後、現メルシャンに入社して発酵製造を研究。この間、アメリカに留学。現在、地元で貸しビル業を営む。大伝馬町一之部町会長を10年間にわたって務め、大伝馬町の活性化に尽力した。別院檀家の野田家の親戚に当たる。農学博士。